出雲
北陵月報

No. 427
令和３年３月10日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社　印刷

令和二年度　出雲北陵高等学校
第一二回　卒業証書授与式
3月2日　本校体育館

春とはいえ肌寒く雨の朝を迎えた3月2日、第112回卒業証書授与式が挙行された。本年度も、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来賓と在校生の参列を取りやめて行われた。国歌が流れ厳粛な雰囲気の中、172名の代表として三村悠斗さんに水谷厚志学校長より卒業証書が授与された。

式辞の中で学校長は、新型コロナウイルス感染拡大の中で長期の休校をはじめ、各種大会や学校行事の中止により辛い思いをした卒業生であったが、挫けることなく努力を重ね、様々な分野で輝かしい功績を残したことを称えた。また、発生から十年を迎え、ややもすると人々の関心が薄れゆく東日本大震災の時のことを取り上げ、震災直後の悲惨な中にあって、両親を亡くした九歳の男の子がとった「自分より他人を思いやる行動」に触れ、今日のこの苦難の時代にこそ、一人ひとりの真価が問われるときであり、己を制し苦難に立ち向かう「剛い心」と、人を慮る・人の痛みが分かる「柔しい心」を持って、自分の道を切り拓いて行って欲しいと激励の言葉を贈った。

理事長とPTA会長の祝辞は、時間の都合で文書により配布された。その中で理事長は、「自分がしたいことは思い切ってやって欲しい。また、正直で誠実な人生を送って欲しい」とエールを贈られた。

学校長式辞

卒業生を代表して田島陽菜さんが、三年生という最後の年に、コロナ禍で思いのほとんどが叶わなかった苦しさを述べ、そんな中でも前向きに作り上げた体育祭や文化祭などの学校行事を振り返り、短かった三年間に大きく成長したことや、部活動での経験を通して「何事にも屈しない精神力」を培うことができた自分を語った。また、高校生活を通して先生方や両親の支えに感謝するとともに、友と励まし合いながら夢を叶える喜びを実感し、夢を追い求められることが何より幸せなことであると述べた。

式の最後、卒業生は三年間歌い慣れ親しんだ校歌を胸に、参列者の大きな拍手に見送られながら、思い出深い学び舎をあとにした。

答辞（代表　田島 陽菜）

卒業証書授与（代表　三村 悠斗）

卒業生受賞者一覧

日本私立中学高等学校連合会会長賞
三宅優也（3-5北陵）

島根県高等学校体育連盟
（卓球部　優秀選手賞）
山本　歩（3-2北陵）・山腰洋平（3-2北陵）
三村悠斗（3-4北陵）

島根県吹奏楽連盟表彰
三成麻琴（3-1出三）・恩田太陽（3-2出一）
加戸佑奈（3-4大一）・田島陽菜（3-5華陽）

島根県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部表彰和上賞敢闘賞
山口翔大（3-2松一）・糸賀千珠（3-5河南）

島根県高等学校野球連盟表彰
飯塚一基（3-4平田）

島根県高等学校体育連盟功労賞
吉岡七生（3-5北陵）

皆勤賞（3ヵ年）
佐藤奈々美（3-1向陽）・須田承太郎（3-2斐東）
祝部　閑（3-2出三）・山本愛華（3-2出一）
金築公平（3-3平田）・玉木羅夢（3-3平田）
古川理名（3-3斐東）・淺尾朋佳（3-4出一）
伊藤朋子（3-4出一）・原　希波（3-4平田）
嘉本拓馬（3-5出一）・島田莉空（3-5北陵）
白築椋真（3-5河南）・安田　稜（3-5大社）
森本あか音（3-5北陵）・勝部　響（3-6出二）
福代雪乃（3-6平田）

特別教育活動功労賞
（団体賞）
・吹奏楽部
・合唱部
・写真部
・インターアクトクラブ
・男子バスケットボール部
・卓球部
・ソフトテニス部
・なぎなた部
（個人賞）
美術部
・脇坂ひな（3-5出三）・飯塚由宇（3-6大社）

卒業生会入会式

時　3月1日
於　本校体育館

卒業式を翌日に控えた3月1日(月)、本年度卒業生の卒業生会(和風会)入会式が挙行された。

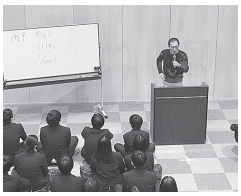
卒業生会会長である森脇俊樹会長からは「挨拶は人間関係で一番大切なことです。本校生徒はどの生徒も進んで挨拶をしています。社会に出てもしっかりと挨拶のできる人であって欲しい。また、本年はコロナ禍で様々な活動が休止となりましたが、皆良く頑張って学校生活に臨んでくれました。卒業後も、本校の校訓である『柔しく剛く』の精神を胸に、誇りを持って頑張って欲しい」と力強いお言葉で卒業生達を激励いただいた。

今後、更に卒業生会の輪が更に広がっていくよう努力したい。

（卒業生会事務局：竹内康貴）

卒業直前講座

時　2月19日
於　本校黎明ホール



2月10日に続き、2回目の卒業直前講座が行われた。「源氏蛍の会」代表三浦成人先生に「生きるということ」と題し、お話しをいただいた。ご自身が、様々な差別を体験されながらもそれに打ち勝ち、また、人間本来の暖かい心に触れて成長されたお話は感動的で、生徒の心に響く内容であった。

この講座で学んだことを生かして、4月から新しい環境で頑張って欲しい。

（3年主任　石川剛亘）

第二十三回　中学校卒業証書授与式

時　3月10日　中高棟ホール

卒業に寄せて

副校長　高橋　豊

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、この3年間で、どんなことを思い出されますか。21名の仲間、先生や部員との出会いから、ここまでに随分と考え方も行動も大人になったと自分は思っています。目を細めながら一人で喜んでいました。よくぞ、時には苦悩をかかえながらも坂道を登ってくれました。今脳裏にまず浮かんでくるのはいい笑顔です。挨拶や返事も気持ちよくやっていました。これは、謙虚で素直な心の持ち主である証拠です。見えるものも大事ですが、見えない心や気持ちを、純粋に表現できていた皆さんだったと思います。さらに大きな場である高校へ行っても、「素直な心」と「謙虚な心」を継続し磨いてください。挨拶、返事、そして笑顔を忘れないでください。おわりに、人生は、漢字のごとく人と生きること、そして人のために生きることが基本線です。人生という長い坂道を前かがみで登ってください。

出会いに感謝

三年担任　相場　翔太

三年生の皆さん卒業おめでとう。人生に一度きりしかない中学校生活はいかがでしたか？三年前の春、出雲北陵中学校へ入学し、新しい環境の中、新しい仲間と出会い、中学校生活を送ってきたことかと思います。振り返ればきっといい思い出もあれば、苦い思い出もあることでしょう。そうした中学校生活での様々な経験を通して、現在の皆さん自身が形成されています。そして、皆さんはこれから新たな道へ進んで行くことになります。義務教育を終え「自分自身で決めた進路」へ進んでいきます。その先で新たな出会いが待っており、そして新たな経験をしていくことになります。そうした新たな出会いや経験を通して、また皆さん自身が形成されていくことでしょう。

私自身も中学校、高校、大学、社会人と、様々な出会いと経験がありました。その積み重ねによって、現在の「私」がつくられています。皆さんとの出会いも現在の「私」を形成するとても重要な要素です。

「学校の先生」という職業は、生徒に教えることが多いように見えて、実は生徒から教わることの方が多い職業であると私自身感じています。三年生の皆さんと過ごした日々の中で、今までの自分の中にはない考えや価値観を見つけることができ、私自身を成長させてくれました。皆さんとの出会いに心から感謝しています。

皆さんはこれから新たな道を進んで行くことになります。新たな道の先に、私が皆さんと出会えたように、皆さんにも素敵な出会いがあることを祈っています。そして、将来、今よりも更に成長した皆さんと出会えることを今からとても楽しみにしています。

改めて、三年生の皆さん卒業おめでとうございます。

★卒業記念品★

デジタルカメラ　1台

タブレット用三脚　2脚

中学校卒業生表彰者

日本私立中学高等学校連合会会長賞

福間日南子（中3大）

島根県中学校体育連盟会長賞

〈卓球部〉

佐藤　卓斗（中3浜）

〈なぎなた部〉

手錢　優果（中3社大）

令和二年度「総合的な学習の時間」発表会

時　2月17日

「ふるさと島根から世界へ～人・自然・文化～」という主題のもと、各学年がそれぞれのテーマで活動した成果を発表しました。

中学1年

『ふるさと学習』

中学1年生は、昨年の11月6日に行った出雲大社を中心としたふるさと島根の歴史巡りについて発表しました。3つの班に分かれて行った研修の内容をまとめて、発表しました。

近くにある出雲大社ですが、訪れてはじめて知ったことが沢山ありました。この研修を通して、コミュニケーションの大切さ、計画性の重要さを改めて知ることができました。得たことをこれからの学校生活に生かしていって欲しいと思います。

中学2年

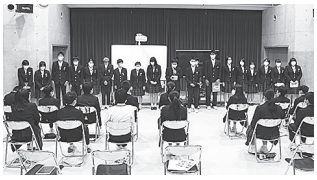
『職場体験学習』

中学2年生は、出雲市内の21事業所にご協力いただき、昨年の11月6日に職場体験学習をさせていただきました。その体験学習の振り返りを発表しました。

どの事業所においてもコミュニケーションの大切さを改めて、学びました。この体験を通して、働くことの意義、業務や理解、働く上で大切にしなければいけないことを知ることができました。得たことをこれからの学校生活に生かしていって欲しいと思います。

中学3年

『英語異文化コミュニケーション体験と隠岐研修旅行』



中学3年生は、昨年10月16～18日に行った隠岐研修旅行、11月4～6日に行った英語研修について発表しました。

具体的には、英語研修で学んだ手法を用いて、自分達が感じた隠岐の魅力について英語劇で紹介してくれましたが、1年生にも理解できるように、日本語の字幕を入れるなど、様々な工夫をしていました。

この研修を通して、英語でコミュニケーションをとることの楽しさや周囲の人と助け合うことの大切さを改めて感じることができました。

どの学年の発表も素晴らしく、クイズを取り入れたり、英語を取り入れたりと、様々な工夫がされていました。当日は20名程の保護者の方にご参加いただき、良い保護者研修の場にもなりました。有難うございました。

第64回　全商情報処理検定合格者

時　1月31日

〈3級合格者〉39人

岩見　颯(2-1大社)・長廻　洸太(2-1平田)
原田　拓実(2-1向陽)・松本　海斗(2-1向陽)
水　歩夢(2-1平田)・立石由紀野(2-1向陽)
桶谷　凪佐(2-2松江三)・桑原　聖斗(2-2出三)
坂根　有祐(2-2平田)・須谷　晴斗(2-2浜山)
手銭　洸太(2-2大社)・原　俊輔(2-2大社)
松本　琉利(2-2出南)・三島　稜平(2-2出三)
三原　陸(2-2平田)・太田　音羽(2-2向陽)
小川　るな(2-2平田)・高橋　彩(2-2北陵)
立石　雪乃(2-2平田)・出羽　優香(2-2平田)
富田　香澄(2-2出三)・森吉　七葉(2-2斐西)
山居　彩音(2-2斐西)・小片　祐希(2-3平田)
嘉藤　優(2-3大社)・北尾　拳士(2-3北陵)
小林　海斗(2-3出二)・高橋　佑輔(2-3平田)
滝尻　海斗(2-3出三)・野津　広人(2-3河南)
原　有矢(2-3北陵)・安食　果南(2-3平田)
江田ひなた(2-3出一)・坂根　千穂(2-3北陵)
佐藤　七菜(2-3平田)・佐藤　陽菜(2-3平田)
高橋　友(2-3平田)・立石　愛乃(2-3平田)
藤原　香織(2-3大社)

美術部

読書感想画コンクール

脇坂ひな(3年生)

佳作　(全国入賞)

最優秀賞(島根県審査会)

第32回読書感想画コンクール島根県審査会が1月13日行われた。本校から指定・自由読書の部合わせて5作品を出品したところ、指定読書の部で最優秀賞に脇坂ひなが、自由読書の部で佐藤至将が優秀賞に選ばれた。また、脇坂の作品は島根県代表として全国の中央コンクールに出品された。

中央コンクールでは、小・中・高の各都道府県代表539点の中から全国入賞の32点が選出される。高等学校の部では、指定・自由読書両部門合わせて8名の入賞があり、脇坂の作品「創る」も全国入賞を果たし、上位から4番目の賞である佳作を受賞した。

読書から得た感動を素直に、清新な画風で表現したことが審査員の高い評価を得た。本校からは初の受賞である。

（顧問　飯塚康弘）

脇坂ひなの作品

ご案内

第19回出雲北陵高等学校進級展

日　時：3月27日(土)　9時～17時
3月28日(日)　9時～16時

場　所：出雲文化伝承館
縁結び交流館
（出雲市浜町520）

入場料：無料

多数のご来場お待ちしています！

作品と研究

国語総合で芥川龍之介作『羅生門』を勉強しました。「下人の行方は、誰も知らない。」という一文で終わる印象的なラストは、いつの時代にも読者の想像力をかきたてます。夜の底へかけ降りていった下人は、老婆は、どうなったのか。生徒達が『羅生門』のその後を創作しました。

松本　京子（1-5 向陽）

その後、盗人になった下人は、老婆から剥ぎ取った着物を売りに出かけた。檜皮色の着物はあっという間に売れてしまった。味をしめた下人は、どんどん引剥ぎにはまっていく。盗人として生き続けていると、仲間ができた。この男は下人と同じ境遇で、主人に暇を出されたという。意気投合した二人はだんだんと名の知れた盗人になった。

ある日、いつものように町を歩いていると、かつらを売っている人がいた。あの老婆かと一瞬期待したが、若い女だった。髪が短いのを見ると、自分の髪をかつらにしているのだろう。下人はその女に近寄り、かつらを買い、引剥ぎで手に入れた着物も手渡した。なぜ盗人である下人が見知らぬ女にここまでするのか。それは、下人が若い女とあの老婆を重ねているからだ。老婆のお蔭で盗人になる勇気が出たし、仲間ができた。下人は老婆に感謝していた。若い女は驚いた顔をしたが、やがて涙ぐみながらお礼を言った。

ふと左を見ると、さっきまでいた仲間がいない。下人が辺りを見渡すと、少し先に二人の男が仲間に詰め寄っているのが分かった。もともと正義感が強い下人は急いで仲間のもとへ向かい、「何をしている！」と言った。どうやら理不尽なことで絡んできたらしい。下人は必死で仲間を守った。が、突き飛ばされ、運悪く頭を打ってしまった。男の意識はそこで途切れた…。

プチ…プチ…。

老婆は髪を抜いている。今髪を抜いているこの男は昨日羅生門に捨てられた。老婆はすぐにこの男が誰か気づいた。そして、蟇（ひき）のつぶやくような声で、「あの世で幸せになれよ。」と言い、にきびのなくなった男の顔をそっとなでた。

羅生門には、髪を抜く音が鳴り続けている…。

峠谷のぞみ（1-5 小郡）

さて、下人はというと、羅生門の楼から下り、町へ出たのはいいが、明かりがほんの僅か、ぽつぽつとしかついていなかったため、自分がどこを歩いているのかを理解できなかった。帰る家もないし、食料もない。雨の中ただひとつ持っているのが、引剥ぎをした老婆の着物だけだった。

「これからどうしようか。」

たった今、あれほど肯定できなかった「盗人」になったのにもかかわらず、明日の暮らしはどうにもならないままだ。もう人々は眠りについており、着物を売って金にすることもできない。この寒い晩秋の夜を野宿で越えられるだろうか。再び下人はとりとめもなく低徊しだした。

下人は、一度盗みを働いたのだから何度しても変わらないという考えに至った。まずは一夜をどうにか越えるために寝床を探さねばならない。夜道を歩き続けてしばらくすると、ボロボロで人気のない空き家のような家を見つけた。忍び足で入ってみると案の定誰もいなかった。

その頃老婆は、下人を探しても埒が明かないと思い、家へ帰ることにした。老婆には、下人と違い、おんぼろではあるが帰る家があった。とぼとぼと家へ向かうと、誰もいないはずの家に人の気配を感じた。「空き巣だ。捕らえてやる」と思い、そうっと中へ入ると、なんと下人が畳の上で寝ていたのだ。

老婆は決心した。下人が起きてしまえば力勝負で負けてしまう。老婆は下人の横に置かれた太刀を握りしめ、目をぎゅっとつむって思い切り下人を突き刺した。

「殺してしまった…。いや、正当防衛だ。」

今までの罪とは比べものにならない罪を犯してしまった老婆は、何度も自分を正当化しようと自身に言い聞かせた。

今日も老婆の家の床下に下人がいる。

今月の1枚　「まだ見ぬ世界へ」
奥田林太朗（中3 稗原）